

5. 事業の概要

はじめに

学園は、「敬和」「温順」「質実」という建学の精神に基づき、知識を養うと同時に、人間形成を尊重する、「学徳一体となった人間教育」の実現に努めています。

その実現のために、私立学校を取り巻く環境が少子化や経済情勢等の影響を受けるなかで、地域から評価され、持続できる学校となることが重要です。

2019年度も学生・生徒の思いを大切に、「充実した学校生活」「希望する進路の実現」「成長した自分を感じての卒業」、そのための教育力の向上や学生・生徒のサポートを教職員一人ひとりが心掛け、地域から選ばれる学校づくりを行ってきました。

2019年度に実施した主な事業

(1) 学園共通

① 地域から選ばれる学校づくり

- ア. 学生・生徒が希望する進路の実現を図りました。
- イ. 教員の教育力の向上、教育の質の向上を図りました。
- ウ. 授業評価による満足度の把握と満足度向上のための対策を実施しました。
- エ. 資格取得の指導やサポートを教職員が全力でフォローし、地域に貢献できる人材の育成に努めました。
- オ. 教職員によるきめ細かな指導やフォローにより、中途退学の防止を図りました。
- カ. 教員による出張講義、教育施設の開放、ボランティア活動、地域社会への知的協力等地域社会との交流を積極的に図り、本学の評価・認知度を上げました。
- キ. 地域の皆様の理解を深めていただくため、ホームページにおいて学校からの情報発信の充実を図りました。
- ク. 教育環境に必要な整備を行いました。

② 本学の特色ある教育や成果を前面に押し出した募集広報活動

③ 新型コロナウイルス感染症対策

2月から検討を始め、3月から対応しました。また、新年度に向けた検討・準備を行いました。

(2) 大学

① 教育・研究

- ア. コンピテンシー教育の改善
本学の特色であるコンピテンシー教育プログラムについて、より効果的なものとなるよう、コンピテンシー・ポイント制度の検討を行ないました。
- イ. FDの取り組み
FD委員会の下、FD研究会の実施や授業評価アンケートの実施等を通じて、全学的に授業内容の改善に取り組みました。
- ウ. カリキュラムの見直し
経済学科・経営学科の専門教育科目について、カリキュラムの見直しを実施し、カリキュラムツリーの導入を検討しました。
- エ. エクステンションプログラムの改善
エクステンションプログラム（課外講座）と専門・教養授業を合わせて受講できるように時間割を作成し、学生が受講するよう促しました。
- オ. 研究
外部資金（科研費等）の助成を受けた研究を行い、あわせて本学紀要を刊行しました。
- カ. 新型コロナウイルス感染症への対応
ソーシャルディスタンスに配慮して、卒業式を行いました。

② 就職支援

- ア. ゼミ指導教員、就職委員、キャリアサポートスタッフが密接に連携し、組織的に就職支援を行いました。
- イ. インターンシッププログラムを改訂し、対象学年を2年次からに広げ、実習先も新規開拓しました。
- ウ. 2021年卒業生向け春休みガイダンスを新規企画し実施しました。

③ 学生生活支援

- ア. 部活動、同好会、学友会等の活動に対して支援を行いました。
- イ. 部活動に関する方針について、活動の支援に加え新規立ち上げの補助について決めました。
- ウ. 教職員が学生に関する情報の共有を図り、平素の生活習慣病の改善指導、心的支援及び生活相談を実施しました。
- エ. ハラスメント防止の啓蒙を行いました。
- オ. 学生の意見・要望の把握に努め、その迅速的確な解決に努めました。
- カ. 熱中症対策や落雷防止の取り組みを継続して行いました。

④ 募集

- ア. オープンキャンパスや高校出張講義に加えて、県内近隣高校を対象とした大学の授業やゼミの体験会を学内で実施しました。
- イ. センター試験利用入試と一般入試を対象としてインターネット出願を導入し、受験生の利便性の向上を図りました。
- ウ. センター試験利用入試の手続き期間を拡大し、受験生に配慮した入試を実施しました。

⑤ 地方創生研究所

- ア. 神流町・渋川市にて群馬県との共同事業（地域振興）に取り組みました。
- イ. 太田市の事業である「新田山グローバル人材事業」に本年度も参画し、英国他4名が短期留学に参加しました。
- ウ. 「地方創生フォーラム群馬」を開催しました。

⑥ 教育環境の整備

- ア. 教育施設の改修を行いました。
- イ. 教室及び教員・職員用のパソコン、マルチメディア教室の機器を刷新しました。

(3) 短大

- ①事業計画の基本方針のとおり、在学生全員が卒業しました。
- ②関係機関に対して、閉学に関わる各種手続を行いました。

① 教育・研究

- ア. 最終学年度まで教員全員が在職し、2回の全教員会で学生への共通理解のもと、きめ細かな教育指導、適切な学生指導にあたることができました。
- イ. 卒業時に学生の意識調査と、学生満足度調査を行いました。
- ウ. 授業評価では、ほとんどの学生が「十分満足」と「ある程度満足した」と評していました。
- エ. 幼稚園教諭免許、保育士資格の取得希望者に対する支援の結果、多くの学生が免許・資格を取得しました。
- オ. フィールド科目に対する学生の関心は高く、多くの学生が科目に関連する資格を取得しました。
- カ. 附属高等学校との高大連携授業に多くの高校生が参加しました。
- キ. 保護者向け教育懇談会を実施し、家庭との連携に努めました。
- ク. 教育研究紀要第62集を発行し、教員の研究活動を推進しました。
- ケ. 新型コロナウイルス感染症への対応として、ソーシャルディスタンスに配慮して、卒業式を行いました。

② 就職支援

- ア. キャリア意識を早期から啓発しながら、基礎学力の向上、試験対策を実施しました。
- イ. 計画的な進路支援の結果、就職希望者全員が就職できました。特に公立の保育所や幼稚園に5名が採用となりました。

③ 学生生活支援

- ア. 教職員全員による学生生活、課外活動の支援を行いました。
- イ. アザリア研修の実施により、保育の実践的演習とともに学生生活の一層の充実を図りました。

④ 地域貢献

- ア. こども研究センターによる子育て教室の開催、ヴェルポトナル言語教育研究所における定期的な言語指導教室を実施しました。
- イ. 館林市との共催による公開講座を開催しました。

⑤ 教育環境の整備

- ア. 教室及び職員用のパソコンを刷新しました。

(4) 高校

① 教育・研究

ア. 教科学習・授業の充実と学力向上

- ① 全教員が授業公開を行い、授業改善に努めました。
- ② 授業アンケートを実施し、わかりやすい授業展開の工夫に努めました。
- ③ 補習・課外授業や学習合宿を実施し、生徒の学力向上に努めました。
- ④ 授業交換を適切に行い、授業確保に努めました。

イ. 教員資質の向上

- ① 校内教員研修を行い、教員資質の向上に努めました。
- ② 群馬県教育委員会や群馬県私立小・中・高協会などの研修に参加しました。
- ③ 教育顧問による授業観察を実施しました。

ウ. 学校評価の実施及び公表

学校評価（自己評価）を実施し、生徒・保護者に公表しました。

エ. 新型コロナウイルス感染症への対応

感染症拡大防止の観点から3月2日から3月23日の間、臨時休校としました。
また、ワカティブ高校（ニュージーランド）への短期留学を計画しましたが、
新型コロナウイルス感染症の影響から中止しました。

② 進路支援

外部模試による学力の測定、課外授業、学力検討会、志望校検討会、センター試験出願説明会、就職説明会、学習合宿、学科研究、進路講演会、職業講話、就職支援、資格取得支援などを実施しました。

③ 生徒支援

- ア. 部活動方針を作成し、それに則り活動しました。
- イ. 学業と部活動の両立を推進しました。
- ウ. 生徒の主体的な活動を支援しました。

④ 募集

学校説明会、中学校訪問・塾訪問、地区別説明会、中学校への出前授業、本校入学者・他校入学者へのアンケートなどを実施しました。

⑤ 関東短期大学募集停止に伴う対応

保育士・幼稚園教諭養成機関への進学支援（経済的支援も含む）を実施しました。

⑥ 教育環境の整備

- ア. 教育施設の改修を行いました。
- イ. 教室及び職員用のパソコンを刷新しました。